

コミュニティバスを新デザインで運行 星原小学校の児童が笑顔で乗降

地域のイメージカラーと、種子島観光大使の「離島閃隊タネガシマン」がデザインされた新しいコミュニティバスが、10月2日から運行を開始し、同月10日に、星原小学校の児童が「星原小下」から、役場に近い「野間」バス停までの乗降体験をしました。

国道沿いで手を上げる児童の側にバスが停車すると、児童は笑顔で乗り込み、目的地で下車して「タネガシマン」が「かわいい」「バスの乗り心地がよかった」「他の色のバスにも乗りたい」と感想を述べました。



もしもに備えて防災訓練 中央保育所



10月4日に、中央保育所で台風接近による大雨で浸水したことを想定した防災訓練が行われました。

園児・職員は、各クラスで待避場所を確保しながら、もしもの事態に備えた避難行動を行いました。

また、非常用保存食「アルファ米」を使ったわかめご飯が給食で出され、園児達は「おいしい」とニコニコ笑顔を見せながら頬張っていました。

地域おこし協力隊通信 (No. 81)

種子島のファン



夫が作ったピザ釜でパーティーしました

先月、東京から友人が遊びに来てくれました。その子は今年の4月にも遊びに来てくれていて、半年経たないうちに再来島してくれました。友人はサーフィンが好きだとか、ロケットが好きだとか、「種子島っぽい」ことが好きな訳ではなく、「居心地が良いから」という理由だけでお金をかけて種子島に来てくれます。今回は3泊4日の滞在で、海で遊んだり、星を見に行ったり、よく行くお店にご飯を食べに行ったり、夫が作ったピザ釜でピザパーティをしたり。移住した私たちの日常が、東京に住む友人にとってはすべてが新鮮なようで、ずっと目をキラキラと輝かせていました。車から見える見慣れた景色も、友人はすかさずカメラを構えて景色を楽しんでいるようでした。次は星がきれいに見える冬に島で会おう！と約束をしてお別れしました。

3月に来てくれた友人はお酒が好きで、居酒屋でいただいた町の特産品「島乃泉」をとても気に入っていました。「大山夫婦はこれから島の人とお酒を呑む機会が沢山あるだろうから」と、去り際に一本ボトルを入れて手をつけずに帰って行った格好の友人です。(東京でボトルをキープするという感覚はあまり無いため、一本あればしばらく呑めるだろうと友人は思ったことでしょうか。後日数人で行った呑み方で数時間で無くなりました)先日その友人から久しぶりに連絡が来て、何事かと思うと「中種子町のふるさと納税、注文したから！」とのこと。後日、友人宅に届いた島乃泉の写真が送られてきました。きつと今頃、東京で種子島を感じていることでしょう。彼の周りにはお酒が好きな人が沢山いるので、さらに島乃泉が広がったら嬉しいです。

私たちが移住して半年経って、11人の友人と夫の家族が遊びに来てくれましたが、皆「種子島のファン」になっています。島の美しい風景や食べたものをSNSで発信し、全力で楽しんでくれます。これからもっとファンが増えたらいいなと思う、今日この頃でした。

大山 愛